

社会福祉法人 清慈会

障害者支援施設 清岳園 地域連携推進会議 議事録

会議名	令和7年度 地域連携推進会議
開催日時	令和8年 3月19日(木) 10時~12時
場所	清岳園 本館 会議室
参加者	構成員①(男性利用者)、構成員②(利用者家族)、構成員③(地域の関係者) 構成員④(経営に知見のある方)、構成員⑤⑥(福祉に知見のある方) 施設長、支援課長
会議資料	○地域連携推進会議について(規程等) ○令和7年度 清岳園事業計画 ○リスクマネジメントについて
記録	施設長 中村直人 支援課長 田中悟史

1. 開会

2. 施設長挨拶

3. 参加者紹介

4. 議事

① 地域連携推進会議の説明(施設長から説明)

<本会議の趣旨等について>

本会議は、障害者支援施設における運営の透明性を図り、施設サービスの質の確保することを目的に、①利用者と地域との関係づくり ②地域の人への施設等や利用者に関する理解の促進 ③施設等やサービスの透明性・質の確保 ④利用者の権利擁護の4点に取り組んでいくこととして国からの指針が示され、令和7年度から地域連携推進会議が義務化されました。

具体的に推進委員の皆様には、地域連携推進会議に参加して施設の機能や運営状況を知っていただくこと。そして当施設を見学していただき、色々な意見交換をして、福祉サービスに活かしていきたいと考えております。

<個人情報保護について>

個人情報については、本会議や施設見学で知りえた情報は、外部に漏らすことの無いように格別のご高配をお願い致します。

<地域連携推進会議規程>

規程内容を説明しました。

- ② 清岳園の概要（令和7年度清岳園事業計画）について（施設長・支援課長から説明）
- 名 称 指定障害者支援施設 清岳園
- 事業内容 施設入所支援（定員 40 名）・生活介護（定員 40 名）  
短期入所事業（定員 2 名のほか空所がある場合は事業利用できる）
- 平均障害支援区分～55 歳 平均年齢～53 歳（最高齢 77 歳）

○基本理念

社会福祉法人清慈会は「利用者の人権尊重」を基本理念に、誰もが心身ともに健やかに育成されるよう、また、社会の一員としての自立訓練や就労支援、生活介護等の支援努めます。

施設長：利用者の意思決定支援に努め、福祉サービスの充実に取り組んでいます。

○令和7年度 運営方針

- ・法人理念の「利用者の人権尊重」のもと、利用者、保護者、関係機関との連携を継続し、利用者の心身の状況の変化に対応した支援を提供します。
- ・高齢者・発達障害の方への支援とともに、3年間感染症対策のため、特に活動制限が多かった若年層の利用者への支援に重点を置いて、支援体制の再構築を行います。
- ・感染症施策、近隣の感染状況を考慮しつつ、引き続き感染症対応に伴い発生する施設利用調整を効率的に行い、収入の安定に努めます。

施設長：新型コロナウイルス発生から、施設内で感染症が発生した場合は短期入所利用の一時的休業や、近隣地域の感染状況を踏まえ外出を控えるなどの対応をしてきましたが、感染症等に関する業務継続計画も策定され、計画に基づく対応に切り替えています。令和7年度から、支援体制においても職員を増員して利用者のニーズに応じて行けるよう努めています。

③ リスクマネジメントの状況

令和7年度 上半期のインシデント・アクシデントの状況について

インシデント～6件（内薬関係3回他）

施設長：薬関係～薬セット時の日付間違いや、他の方の薬ケースに入っていたことがあり、他職員が気付いて修正したなどです。

アクシデント～41件（内転倒と怪我15件、薬関係7件他）

施設長：転倒怪我では、トイレ等での移乗時の転倒や、環境因子による不穏行動から他害行為などに至るケースもあります。利用者の状況に合わせて、職員配置を多くするなどの対応はしていますが、突発的な行動については、すべてを防ぐことができないのが現状です。

## 5. 全体質疑

- 構成員：リスクマネジメントについて、清岳園が開所されてから、施設からの無断外出することが度々聞かれたが、現在は無くなっている。何か変化はありましたか。
- 施設長：支援費制度が2003年に施行され、この制度では、障害のある方が自らサービスを選択し、事業者と契約を結んでサービスを利用する「利用者本位」の仕組みが導入されました。この時期から利用する方が自身で判断してサポートを受けたい施設を選択できるようになり、利用者が施設を出ていくことは減少しました。現在では、施設の支援体制も充実し安全に生活できる環境になりました。社会福祉法人清慈会としても、福祉サービスが選択できるようにグループホームや福祉的就労の場等を開設するなど、多様化する利用者のニーズに合わせて取り組んできました。グループホーム開設時には、地域の方々の支えもあり、地域住民と共に生活できています。
- 構成員：インシデント・事故報告等について、同じ方の事故があるようだが、内容はどうなっていますか。
- 施設長：利用する方の中には、障害特性として、聴覚、視覚、臭覚に過敏性があり、環境的要因でストレスを感じることがあります。その中には突発的に不穏になってしまう方もいらっしゃいます。利用する方の表情などを観察し必要に応じて職員が1対1でサポートし情緒の安定は図っていますが、防ぎきれない場面も実際にあります。次回の会議ではリスクマネジメント体制について、詳細をより詳しく説明させていただきます。
- 構成員：インシデント・事故報告書において、どの程度の事故なのかを文面だけでは判断が付きづらい為、判断基準を明確にしてはどうか。
- 課長：報告書としてあがった事案に対しては、必要に応じて早急に検討会議を開催し対応策を話し合っている。今後は話し合いを基に、5段階程度に分類し、高いリスク事案に対しては、報告書においても詳細に記していくよう努めていきます。

## 6. 施設見学

### <感想など>

- 構成員①：すべての方が個室で自分の部屋として利用しており室内も広い。
- 構成員②：施設が綺麗に使用されている。臭いもない。
- 構成員③：施設機能の説明を受けて、職場的に仕事のしやすさを感じる。よく考え施設が設計されている。(洗濯の環境や感染症対策等)

## 7. 連絡事項

次回、令和8年度地域連携推進会議開催は、6月下旬から7月中に実施する予定ですので宜しくお願い致します。

## 8. 閉会